
2 階に住んでる家族が掘りごたつを始めたんだが

水銀。杏

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

2階に住んでる家族が掘りごたつを始めたんだが

【Nコード】

N4685Y

【作者名】

水銀。杏

【あらすじ】

テーマは『親孝行』です。掘りごたつって憧れですよね。

（前書き）

思いついた話です！w w 適当です！
少し長めですが、あっという間に読めます！

皆さんは『親孝行』をしたことがあるだろうか？

俺の家族は、両親が共働きしないと生活していけないぐらい、それなりに金に困っていた。

なのに俺は、高校も大学も私立を選んでしまった。

大学は家から電車で1時間半も掛かるが、一人暮らしする金がないので、

実家から通っている。それは仕方ないと思った。

だが、大学2年生の10月、悲劇が起きたんだ。

そろそろ肌寒くなってきた…もうすぐで夜の8時。

学校が終わるのが16時なのに、電車が遅れてこんな時間になってしまった。

もちろん夕飯は食べていない。かといって買う金がなかった。

「ただいまー」

俺の家族は3階建てのアパートの1階に住んでいる。

ドアを開けると、カレーの匂いがした。

玄関から一番近い部屋が俺の部屋。ワクワクしながら鞆を置く。

親がテーブルに俺のカレーライスを用意してくれた。

いつもどおりに椅子に座ると同時に、違和感に気付いた。

いや…、なんでリビングにきた時点で気付かなかったのか…。

やけにカレーライスが輝いている。そして、頭上が温かい。

「！！？」

天井がヘコんでるうううううううう！?????

心の中でツツこんでしまった！

どういうことだ！？なんでこんな近くに照明があるんだ！？

天井は正方形にヘコんでいる。俺は、その正方形の大きさを見て、

「まさか…2階の人が」

「そうよ、掘りごたつにしたみたいよ？」

お母さんは羨ましそうに言った。

「いやいやいやいやっ！ダメだろ！？アパートだぞ！？

この圧迫感やべえよ！？1階に住んでるなら分かるけど、…常識的にダメだろ！？

「2階の5人家族（父・母・長男・次男・末っ子）はバカなの？朝はなんともなかったのに！」

「寒いのはお互い様だものねー」

「数時間で終わるって言うてたからな、大丈夫ですって言ったぞ」

お母さんとお父さんは、ヘコんだ天井を見て笑った。

ええええええー…って思いながら、俺はカレーライスを食べた。

今から2階の人に元に戻せっていうのは無理があるかも知れない。

俺は悩んだ。もの凄く悩んだ。大学受験より悩んだ。

今度の休み、家に1年ぐらい付き合っている彼女を呼ばうと思っ
ているのだ。

正直のところ、就職先が決まって、大学を卒業したら結婚するつもりなのに、

リビングの天井がヘコんでいる家に呼んでいいものなのか…。

数日後、予定通りに彼女を呼んでしまった。

「お邪魔します」

「いらっしやい！可愛い子ね」

「そんなことないです／＼」

自然とリビングに向かい、椅子に座る。

「……」

彼女に目線が斜め上を見ているのが分かった。

やっぱり、2階の5人家族（父・母・長男・次男・末っ子）が掘りごたつになったってことを、

言うべきだったのだろうか……。変な空気が流れてしまった。

「あの……お母さん、お父さん」

本題を話した。謎の圧迫感を気にしながら真剣に話した。

すると、ヘコみからバタバタと音がする。多分子供が遊んでいるのだろう。

ピンポン。いきなりチャイムが鳴った。2階の人だ。

「奥さんごめんなさいねー。子供が暴れちゃって」

「いえいえ、そういう時期ですからねー」

2階の5人家族（父・母・長男・次男・末っ子）！！まじで空気読んでくれ！

色々と騒がしかったが、無事に結婚の許可が出た。

それから数年後。今、俺は彼女と小さいアパートに住んでいる。

俺は大手会社に務めることになり、大学も卒業し、彼女と結婚、俺は金を貯めるにした。

マイホームと……もう一つ目的がある。それは親孝行だ。

久しぶりにお母さんに電話をする。

「なあ、……もし」

マイホームを建てたら、一緒に住まないか？

そう言おうとしたが、彼女の性的に姑と住むのはアレかと思った。

「なんだい？」

「あ、いや……。俺さ、沢山貯めるよ！そうしたら、その金で……、掘りごたつ……作ってください」

それまた数か月後、掘りごたつが完成したという電話がきた。それと同時に、彼女が妊娠したことを教えた。

お母さんとお父さんはとても喜んでいた。

これが、俺の親孝行の仕方だ。

（後書き）

オチが強引でしたねwwwごめんなさい！
感想・誤字等受け付けます。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n4685y/>

2階に住んでる家族が掘りごたつを始めたんだが

2011年11月17日18時37分発行